

平成30年度多賀城市公共交通会議

議事録

1. 日時 平成31年3月18日（月）15:00～16:00
2. 場所 多賀城市役所 3階 第1委員会室
3. 議事録

事務局 それでは、ただいまより平成30年度多賀城市公共交通会議を開催いたします。

まず始めに、菊地健次郎多賀城市長からご挨拶を申し上げます。菊地市長よろしく願います。

市長 本日は、お忙しい中、平成30年度多賀城市公共交通会議にご出席いただき、まことにありがとうございます。

本公共交通会議は、市民の生活の足としての路線バスの確保やその他の公共交通機関との調整を図り、地域の実情に即した公共交通サービスの実現を目指し、平成24年度に設置したものでございます。委員の皆さまにおかれましては、何かとご多用のところ、この会議の委員をお引き受けいただきありがとうございます。

さて、本市を取り巻く公共交通の現状でございますが、皆さまご存じのとおり、本市には、4箇所のJR駅があるほか、近隣市にも利用可能なJR駅が3箇所あり、また、本市内を運行している路線バスが8路線、タクシー事業所が4社と、公共交通に大変恵まれている環境となっております。

このような中、本市では、効率的で効果的な生活交通ネットワークを実現するため、平成29年3月に多賀城市生活交通ネットワーク計画を策定し、市内を運行する多賀城東部線及び多賀城西部線の2路線を、市内の主要箇所へアクセスする重要路線として位置づけ、その運行を支援してまいりました。

その結果、多くの方々にご利用をいただき、多賀城東部線及び多賀城西部線の利用実績は順調に推移しております。詳細につきましては、後ほど事務局より説明がありますが、昨年度実績においては、2路線合わせて、およそ12万3千人以上の方々にご利用いただきました。今年度においては、12万8千人程度の利用が予想されており、昨年度より5千人ほど、多くなる見込みとなっております。

しかしながら、いまだ運行経費を運賃収入で賄うまでにはいたっていない状況が続いており、今後も持続可能な運行を継続するためにもバスの利用促進策の検討、実施、路線バスの周知等を行っていく必要がございます。

また、今後、高齢化社会が進展し、加えて、昨今においては、高齢者の交通事故死亡事件が相次ぎ報じられており、公共交通が果たす役割は、益々重要になっております。

こうしたことを踏まえ、本市のより良い公共交通の構築に向けて、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。

本日は、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 菊地市長、ありがとうございました。市長は他の公務のためここで退席いたします。

改めまして皆様、本市の公共交通会議の委員を快くお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

委員の任期は平成31年3月1日から平成33年2月28日までの2年間となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

今回皆様に委員の再任、また新たに就任いただいておりますので、私の方から委員の皆さまのご紹介をさせていただきます。

〔14名の委員を紹介〕

事務局 それでは、次第の4に進みまして、本会議の会長の選任を行いたいと思います。

本会の会長については、多賀城市公共交通会議設置要綱第5条に基づき、委員の互選により決めることとなっております。会長の推薦の意見等がございましたらよろしく願いいたします。

委員 宮城大学の徳永副学長をご推薦したいと思います。

事務局 ただいま、徳永副学長を推薦する意見がございましたが、委員の皆様ご異議ございませんでしょうか。

〔異議なし〕

事務局 それでは、異議なしの声がございましたので、徳永副学長、会長就任よろしく願いいたします。中央正面の会長席へお移りください。

それでは会長から一言御挨拶をお願いいたします。

会長 前回に引き続き会長に就任させていただきます。菊地市長からも話がありましたとおり、公共交通の利用者は徐々に増えているところでありますが、持続可能な公共交通にしていくためにはどうしたら良いか、更に使いやすいものにするにはどうしたらよいか、など、まだまだ公共交通には課題は多いところでありますので、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきながら、よりよい公共交通づくりに邁進できればと思っております。よろしく願いします。

事務局 会長ありがとうございました。

それでは、続きまして次第5の議題に移りたいと思います。

ここからは、会長が議長となり議事進行を行っていきます。徳永会長よろしく願いいたします。

会長 はい、それではここからは私が議長となって議事の進行をさせていただきます。本日の会議は、今年度の利用実績や乗降調査の結果について、また、今後の公共交通利用促進等についての報告等がメインとなっておりますので、よろしく願いします。

それでは、議題(1)「多賀城東部線及び多賀城西部線の乗車実績等について」事務局から説明をお願いします。

〔資料に基づき事務局説明〕

会長 ただいまの説明につきまして、委員の皆さまからご質問やご意見があればお願いします。

〔質問等なし〕

会長 それでは次に、議題(2)の「多賀城東部線及び多賀城西部線の利用実態調査の結果について」事務局から説明をお願いします。

〔資料に基づき事務局説明〕

会長 ただいまの説明につきまして、委員の皆さまからご質問やご意見があればお願いします。

委員 西部線について伺います。定期的な利用者はどの程度いますか。

事務局 西部線においては企画乗車券の使用者割合が半数程度いることから、利用者の半数は定期的な利用者であるものと捉えております。

会長 東部線についてですが、2ページ目の乗車バス停は国府多賀城駅が利用者43人となっており、一方、降車バス停の利用者が18人となっている。行く時はバスを利用したが、帰りはバスを利用していなかった、またはその逆が考えられます。原因は何か考えられま

すか。

事務局 現在、東部線は1時間に1便程度運行していますが、行き、または帰りのどちらかで時間がずれると、やはり1時間間隔ではバスを利用できないと、それが片道利用者の自由意見にも表れております。これを解決するには、例えば増便してバスを30分に1本走らせることなども考えられますが、単純な増便は様々な問題が生じてきます。鉄道との乗り継ぎ調整など、路線バス維持の負担にならないような対策で改善を図っていきたいと考えています。

委員 東部線についてですが、通勤の割合が高いのはわかりますが、通学の割合が少ないのは何か理由はあるのでしょうか。

事務局 前回の乗降調査時と比較すると、通学の割合は増えているため、利用者は増えているものと考えられます。今後も更に周知し、通学に利用していただくよう努めたいと考えております。

また東部線については、他に競合する路線バス等もあるため、そちらを使っている場合も考えられます。

委員 今回は1月に調査を実施していますが、次回は7～8月に調査する予定はありますか。

事務局 来年度実施する予定です。東部線及び西部線は時期によって利用形態が大きく変わるわけではないので、調査の実施時期について明確には定めてはおりません。

委員 寒い時期では利用者が限定される恐れがありますので、暖かい時期に調査することも検討してみてもはどうでしょうか。

事務局 おっしゃるとおりで、例えば夏に雨が降る時期はバスの利用者が多くなります。調査時期の参考とさせていただきます。

会長 確かに、バスの利用状況というのは、気候や気温で左右される場合があります。特に、普段から自転車などを使う人は、悪天候になればバスを使うこともあると思います。大崎市の高校生を対象とした調査では、自転車通学者の約3割は、雨天時には親の送迎に変わるという結果になっており、また、この親の送迎に変わる高校生の数というのは、バスを利用する高校生の5倍となっていました。多賀城市の場合は、大崎市と比較して近距離での移動が多いかと思いますが、それにしても最近では雨が降ると高校付近では渋滞しますので、そのあたりも今後バス利用の周知など検討していければと思います。

会長 それでは、次に議題(3)の「今後の公共交通利用促進及び利便性向上施策について」、事務局から説明をお願いいたします。

〔資料に基づき事務局、鳴原委員説明〕

会長 ただいまの説明につきまして、委員の皆さまからご質問やご意見があればお願いします。

委員 このバスロケーションシステムというのは、スマートフォンで何かアプリをダウンロードする必要はあるのでしょうか。携帯電話でも使えますか。

事務局 イメージとしましては、アプリ等のダウンロードは不要で、多賀城市のホームページ内にバスロケーションシステムのURLを掲載し、そちらをご覧くださいと、バスの運行状況等を確認できるようになっております。

委員 バスロケーションシステムは大変便利でよろしいと思いますが、高齢者にとっては優しくないのではないのでしょうか。利用者全員がこのシステムを理解できる人ばかりではないと思います。その辺りは考慮してましたか。

事務局 検討段階では、多賀城駅に電光掲示板のようなものを設置し、今の運行状況をお知らせできるように仕組みも考えましたが、導入には多額の費用がかかるため、まずはこの安価

なシステムから初めていければと考えています。

会 長 このイメージ図は、スマートフォン対応しているのか。

事務局 スマートフォンも PC と同様に対応しております。

委 員 今後の高齢化社会により免許返納者も増えてくると思います。そのような中で、高齢者がバスを利用する機会は増えていくと思いますので、高齢者に優しい仕組みを考えていただければと思います。

会 長 例えばですが、各バス停に電光掲示板を設置しても、高額な費用が発生する上、利用者が簡単に増えるということもあまり無いものですから、厳しい財政状況の中で、比較的安価なシステムを導入し、これまで以上の利便性を図るということになるかと思っておりますので、今後に期待したいところです。また、このようなシステムを活用する以外にも、最近ですと、例えば SNS を活用したコミュニティサービスの中で、バスの遅延情報や位置情報の共有など、利用者側が工夫をすることで、バスを使いやすくなるような手段も今後検討していく必要があるのかなと思っています。

また、資料の中で、東部線についても実施を検討中とあり、様々な事情がある中ではあります。このシステムかどうかは別として、いずれ何かしらの情報提供手段を考えていただければと思っておりますので、引き続き検討するようお願いしたいと思います。

委 員 資料 2 の 7 ページにあります、西部線は乗りにくい（高い）という自由意見がありますが、バスに乗るときの段差かと思っておりますが、買い物客が利用するとき、段差があつて利用しにくいとかそういった類のものでしょうか。

事務局 バスの金額が高くて乗りにくいという意見でございます。

委 員 西部線と東部線の料金体系についてですが、近隣市町の路線バス、例えば塩釜市や七ヶ浜町、利府町は 100 円となっております。何故、多賀城市だけ高いのだろうと、利用者や住民は思っていると思います。赤字路線であることは間違いなく、収支率も東部線では年々下がっており、市の負担が増えているところではありますが、料金を半額にするなど、利用者を増やすような努力も必要なのではないでしょうか。

事務局 おっしゃるとおり、効果的な利用増になるような取組みを今後実施し、事務局を始めこの公共交通会議の場でお示しできるようにしたいと考えております。

また、このバスの料金につきましては、本市議会からも再三要求をいただいているところであり、事務局も検討はしているところではありますが、収支率が中々上がってきていないこともあり、市の負担分が大きくなってきています。おっしゃるとおり、料金を半額にして、利用者がその分増えれば収支に影響は出ませんが、果たして本当にそれだけ利用が増えるのか、という問題がございます。しかしながら、例えばですが、75 歳以上の高齢者の方が外出しなくなってくると、健康面に影響が出てくるといったこともありますので、今後検討していかなければならないものと考えております。

委 員 そういう意味ではやはり、高齢者に無料バス乗車証のようなものがあれば、付添の人もバスに乗ってくれるようになり、それもまた利用増につながるのではないかと思いますので検討をお願いします。

委 員 バスの利用者を増やすには、市の中心地に施設がある、または市民が交流できる場所を作るなど、そういったまちづくりと連動した利用促進策を実施するのも良いのではないのでしょうか。

事務局 市立図書館が老若男女問わず市民が利用できる場となっており、1 日滞在して様々な情報を得ることができる施設でもあるため、図書館完成後の東部線、西部線の利用者は増加

してきています。

委員 市立図書館も含め、まちづくりと連動した公共交通の利用促進策を検討していただければと思います。

会長 まさにそのとおりで、公共交通の課題は公共交通だけで解決できるものでもありません。目的地があれば、移動手段としてバスが出てくるので、都市計画やまちづくりとどのように連携させていくのか検討する必要もあると思います。また、他市町と比較すると、多賀城市は様々な施設が揃っていますので、条件は良い方なのかなとも思いますが、今後もまちは変わっていきますので、その中で、公共交通の位置付けをしっかりと持ち、市役所内の様々な部署と上手く連携することで、利用しやすい公共交通体系を構築していければと思います。

また、先ほどの運賃の件ですが、身近な例で言いますと、利府町がバス料金を100円にした際には、利用者は1.4倍まで増えましたが、結果的に、利府町の負担は大きくなりました。これから免許返納する人はこれまで自動車を運転していた方なので、安いというよりは、いつでもバスに乗れる状況が望ましいと考えます。ただ安くして、収支が悪いので、減便するというのではなく、利便性と料金のバランスをしっかりと考える必要があると思います。この料金の課題については、今後も公共交通会議の議題になるのかなというところです。

会長 それでは、次に議題(4)のその他について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 事務局から2点ほどございます。

情報提供というよりお願いの部分が大きいのですが、昨年の9月に行われた市議会定例会の一般質問の中で、市議会から2点ほどバス関係の要望がございました。

1点目が、後期高齢者(75歳以上)の負担軽減施策について、2点目が、バス停へのベンチの設置についてでございます。

まず、後期高齢者の負担軽減施策についてですが、先ほども少し話が出ましたが、今後、高齢化社会を迎えるに当たって、介護予防の観点、また、近年社会問題化している高齢者の交通事故対策としての自動車運転免許の自主返納の促進の観点から、バスの料金の減額を求める内容となります。

この対応として、現在、本市において検討進めているところでございますが、今後、関係団体の皆様との協議をさせていただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

次に、バス停へのベンチの設置についてですが、昨年度、会議の場でも述べさせていただいたのですが、多賀城駅については結束点ということで多賀城市の方でベンチを設置させていただいておりましたが、各停留所におかれましても、道路法との絡みがあって簡単には置けないとは思いますが、可能な場所についてはぜひ検討していただきたいと思っております。こちらはミヤコーバスさん及び仙塩交通さんの方にも持ち帰って継続してご検討いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

会長 その他いかがでしょうか。なければ以上で議題の方は終了となりますがよろしいでしょうか。では、進行を事務局に戻します。

事務局 会長ありがとうございました。

委員の皆さま、お疲れ様でございました。今会議の結果につきましては、要綱第6条第5項の規定に基づき、ホームページ上で公開いたしますので、ご了承願います。

また、次回の公共交通会議については、来年度に2回程度開催予定です。その際は別途ご案内を差し上げますので、よろしく願いいたします。

以上で、平成30年度多賀城市公共交通会議の全てを終了いたします。本日はありがとうございました。